

昆虫と遊ぼう！



子ども歳時記



庭の植木や公園の植え込みなどで、バッタやチョウなどの昆虫を見かけます。昆虫とは、体が節で頭、胸、腹に分かれ、胸から出た足が6本ある動物のこゝです。クモやダンゴムシは昆虫より足が多く、体の構造も異なるので昆虫ではありません。

世界に100万種以上いるといわれている昆虫ですが、どのようなところにいるのでしょうか。森や林だけではありません。川や池の中にもいます。海の中や、極端に寒いところ、熱いところにはいません。1) 森や林で見かける昆虫：クヌギなどの葉にはオトシブミがいます。オトシブミは、幼虫のために葉を丸めた巣を作ります。木の幹に小さ

な穴が開いていたなら、シロスジカミキリが見られるかもしれません。樹液にはカナブン、スズメバチ、タテハチョウの仲間などが来てにぎやかです。2) 草原で見かける昆虫：日当たりのいい草の上ではかわいいナナホシテントウムシが動き回っています。ツバメシジミやモンシロチョウも飛んでいます。背の高い草むらにはクツワムシが棲んでいます。丈が低い草にはマメコガネが棲んでいます。3) 水辺で見かける昆虫：水のきれいな川にはゲンジボタルが棲んでいて、初夏の夜になると光を点滅させながら飛びます。過ごしやすい季節になりました。ピクニックやハイキングがてら、昆虫探しに出かけましょう！

住環境コーディネーター
引地春美

子育て親育ちエッセンス

子育てサークル「やんちゃんこ」
代表 濱田 英世

最近、小児科にメディアに関するポスターが貼られているのをご存知ですか？例えば、下記のような内容です。

- ◆2歳までの、テレビ・ビデオ視聴は控えましょう
- ◆授乳中、食事時のテレビ・ビデオの視聴はやめましょう。
- ◆全てのメディアへ接触する総時間を制限することが必要です。

このようなポスターができていくということは、メディアへの接触によって何らかの影響が及ぶことが医学的に裏づけされているということなのです。それに気づいておられるでしょうか？

もうほとんどの人が携帯電話やスマートフォン（以下、スマホ）を持っている今だからこそ、その使い方について大人が正しい知識を持ち、その対応について、子どもたちにきちんと教えていかなければなりません。

子どもが成長していく中で、五感を使う経験というもの、非常に大きな影響を与えます。五感とは「視覚（目・見る）」「聴覚（耳・聞く）」「嗅覚（鼻・嗅ぐ）」「味覚（舌・味わう）」「触覚（皮膚・触る）」のことであり、これらの感覚を養うことで感性が豊かになり、脳も活性化されていくと言われています。また、五感が敏感であると、いろいろな事象や状況判断力も身につく、コミュニケーション能力も発達していきます。だからこそ、小さい間はどんどん手先を使い、いろいろなことを体験させてほしいのです。

ところが、このような寂しい場面に出会うことがしばしばあります。子どもとレストランに入ってきた親子。注文し終わると、お母さんはすぐにスマホの画面を見つめ、子どもはポツンと座っているといった場面。ショッピングモールで赤ちゃんを抱っこし

て座っているお父さん。下から赤ちゃんは一生懸命お父さんの顔を見上げているのですが、お父さんの視線はスマホのゲームという場面。子どもが泣き出したら、すぐにスマホを持たせて動画を見せる大人。そのせいか、最近絵本が読めない園児が増えているというお話も聞きました。人差し指を立てて、絵本をなでるのだそうです。しかし、絵本の挿絵は動きません。「（スマホのように）動かさないのはおもしろくない」と言い出すそうです。

大人がこのような態度を取れば、このような子どもが育っていくのも当然のこと。メディア依存の子どもが増えているのではなく、メディア依存の大人が増えていることがまず問題なのではないでしょうか。

子育てしていく上で環境作りは大人の役目だと思います。お金があるからといって次々と欲しがる物を買って与えるのではなく、我慢させることも教えなければなりません。重たいからといって、すぐにカバンを持ってあげるのではなく、自分の持ち物に責任を持たせることも教えなければなりません。メールやゲームがしたいからといって高価な携帯電話やゲーム機器を買って与えるのではなく、手紙や電話によるコミュニケーションの取り方を教えたり、自然の中での遊びを体験させたりしてほしいのです。

本当の意味での賢い子どもを育てるために、私たち大人が今一度、見直す機会をもってほしいかがでしょうか。それが家庭の教育力であり、共に育つ共育=教育だと私は思います。